

男子の特性を生かした多彩な取り組みで 興味・関心をひきつけ学習効果を高める 海城中学校の英語教育

生徒たちの「競争心」を刺激し 構文と文型を教科書と頭に入れる

—先ほど、中学1年生の英語の授業をたいへん興味深く拝見させていただきました。中学生男子は飽きっぽく、集中力が続きにくいといわれています。生徒たちを授業に集中させるために、先生方は普段からどんな工夫をされているのでしょうか？

清水 この年代の中学生は「競争」が大好きです。そこで、周囲の仲間と何かを競い合わせるアクティビティを取り入れ、生徒たちのやる気を引き出しています。それも、単に勝ち負けにこだわるのではなく、競争を通して自分の成長が実感できるような仕掛けを工夫しています。

私が授業で実践しているのは、「バズ・リーディング (Buzz Reading)」というアクティビティです。これは、教科書にある20〜30語程度の英文を、1分間に何回音読できるか競い合うというもの。私の「Start!」のかけ声とともに、生徒たちは一斉に早口で音読を始め、最後の行を読み終えるたびに、指を折って回数をカウントしてい

“オーセンティック”な題材を扱い 実践的な表現に触れるチャンスを広げる

—大松先生は、中1の生徒たちが楽しみながら授業に取り組めるように、どんなことを心がけているのでしょうか？

大松 私が大事にしているのは、題材として“オーセンティック”、すなわち本物を扱うことです。教科書の文章には“作り物らしさ”が感じられます。学習のために書かれた架空の設定の中での発話ですから、しかたありません。その単元で習うべき文法や単語が決まっている以上、それらを盛り込まなければならぬのですが、生徒たちがそれをリアルに感じられないと、内容に興味を持ちづらくなってしまいます。そこで、彼らが身近に感じる“本物”を扱うことで、実践的な表現に触れるチャンスを広げ、英語学習そのものへの興味を高めるよう意識しています。

たとえば、今日の授業では「三人称の代名詞」を学習しました。「この人たちは誰ですか？」と問いかけるとき、彼らにとって身近な人物の画像をスライドで映して「She is ○○○○」という文章で答えさせました。

中1生の教室に潜入！1時間があっという間に 過ぎてしまう、楽しく学べる工夫が満載の授業



電子白板（ホワイトボード）に映る有名人の写真を
見て、「This is〜」という表現を使って人物紹介を
するアクティビティ。最初の生徒は、錦織圭選手
の写真を見て、「This is a picture of Kei Nishikori.

He is a tennis player. He is cool.”と答えました。その後、イチロー、「ドラえもん」のしずかちゃんに続いて男性の写真が映し出されると、全員大爆笑！写真の人物は、クラス担任の春木先生（数学科）でした。「This is a picture of Mr. Haruki. He is a good math teacher. He is gentle.」生徒は笑いをこらえながら答えると、教室は再び爆笑に包まれました。



—その場面は拝見していました。テニスの大坂なおみ選手、俳優の有村純純さん、NHKの番組に登場するチョコちゃんやキョエちゃん、それに御校の校長先生も登場していましたね。

山口 英語科の教員同士、特に打ち合わせをしたわけではありませんが、be動詞の授業では、「有名人」を扱うと彼らの印象に残ることが多いように感じます。ドラえもん等のキャラクターのほか、そのクラスの担任教諭など、本校関係者が登場するものも約束です。

—山口先生は、ご自身の英語の授業にどんな工夫をされているのでしょうか？

山口 これは本校の他の教科にも共通して言うことだと思いますが、中1の、特に1学期では、「授業を受けるときの姿勢」を身につけさせることが重要だと考えています。彼らはほんの少し前まで小学生だったわけですから、授業のそれぞれのタイミングで、「今、何をやるべきなのか？」をテンポよく、かつついでに指導してあげることが大切ですね。

大松 同感です。本校では中1、中2の英語の授業が週5時間あります。つまり、私たち英語科の教員は、担任教諭よりも長い時間、授業中の態度を見ています。気になる点があれば適宜担任とも共有するようにしています。

英語を五感で楽しむために クラス全員で洋楽のナンバーを熱唱

—授業中、生徒全員で英語の歌を歌う時間も
ありましたね。清水先生と山口先生の授業ではビートルズの「ハロー・グッドバイ」、大松先生の授業ではロッド・スチュワートの「セイリング」。これも新鮮な驚きでした。全員、歌詞カードのプリントを持っていて、それを見ながら生き生きと楽しそうに歌っていました。

山口 本校では、英語の授業で頻繁に洋楽を歌っています。選曲の基準の一つは、中1の場合、歌詞が比較的分かりやす

いこと、でしょうか。ビートルズやカーペンターズは定番ですね。明日あたりから曲を変えようかと3人で話し合っています。そろそろ教科書に「三単現の-s」が出てくるので、歌詞に「三単現の-s」が出てくる曲はどうだろうか、と。

—歌う歌はどれくらいの頻度で変えているのですか？

大松 ひとつの定期試験までに2〜3曲でしょうか。年に5回定期試験があるので、年間10〜15曲くらいになります。授業で歌った歌の歌詞も試験に出題するんですよ。

山口 中の学期の中間試験では、歌詞の穴埋め問題を出題しました。配点10点。みんなよく出来ていました。大松 中2以上になると「先生、その曲は古い」なんて言われることもあります。逆に、「この曲を歌いたい」と生徒側からリクエストされることもあって、ふさわしい曲であれば要望に応えます。ブルーノ・マーズやアリアナ・グランデは生徒から教えてもらいました。

清水 卒業生に会うと、「授業では英語の歌をよく歌われました」と必ず言います。まるでそれ以外の授業をしていなかったかのように（笑）。それだけ歌のインパクトは強いんですね。

—生徒に英語の歌を歌わせるのには、どのような工夫があるのでしょうか？

山口 まずは身近な英語に触れてみよう、という意図です。中学生の日常生活で身近な英語といえば、やはり洋楽のロックやポップスになりますから。全員で英語の歌を歌うことは、英語に触れるよい機会となり、彼らの学習意欲を高める助けにもなっていると感じています。

英語科全員で情報と教材を共有し 中高6年計画で授業を進める

—清水先生の授業では、教科書を開いたタイミ

7名の生徒が電子白板の前に立つと、教室内は大きな拍手で包まれました。拍手が一段落すると、生徒たちがそれぞれ1分ずつ、マイクを片手に英語で自己紹介に挑戦します。「Hello, everyone. I am Haruto. Please call me Haru. I am a big fan of the



ングが授業開始30分後でした。山口先生も大松先生も、授業の最初には教科書を開きませんでした。何か面白いことがあるのでしょうか？

清水 私の場合、「最初は音から入りたい」と考えています。教科書を開いてしまうと、イラストや新出単語などが目に入り、どうしても気が散ってしまうからです。まず、生徒の意識をリスニングに集中させるため、プリントを別に作成し、授業の始まりはそのプリントをベースに進めていきます。

—まず耳から英語に触れるのは、ネイティブに近い学習環境をつくるということですか？

山口 そこまで深い意味はないにしても、リスニングから入るといえるのは、最新の英語教育の一つの潮流になっていきますね。

—教員の皆さんは、授業の進め方など、普段から情報交換をされるのでしょうか？

山口 本校では職員室が教科別に分かれているため、日常的に教科指導についての情報交換をしています。教員専用のタブレット端末が1台ずつ支給され、教材の電子ファイルも共有しているため、ほかの先生の教材を使うこともあります。

大松 同じ中1を担当する教員同士、進度については打ち合わせをします。もっとも今年も、中1を担当するのは3人とも初めてではないので、あ

る程度はあうんの呼吸で進めています。

本校は教員の入れ替わりがほとんどありません。基本的に、中1を担当した教員は、彼らが高3になるまで持ち上がりです。そのため、6年間の学習計画をイメージしつつ、構文や文型が頭に入っているかどうかを週2〜3回的小テストで確認しながら、中1を指導していきます。私たち英語教員の最大の使命は、生徒たちを英語嫌いにさせないことです。



清水 大松先生は日頃から、「英語は体育と同じだ」とよくおっしゃっていますね。

大松 そうですね。理屈を頭で理解できなくても、要は英語が使えるようになればいいのです。英語学習の習慣さえきちんと身につけられれば、英語という技能をある程度修得することは、そう難しいことではありません。

山口 さらに理論が加われば、鬼に金棒です。

オリジナルプリントとアクティビティで 海城らしい手作りの授業を展開

—本日、英語の授業を見学してもう一つ驚いたのは、「ONE WORLD」という検定教科書を使っていることです。御校のような進学校の場合は、検



Swallows. 千葉ロッテマリーンズファンの大松先生が
“and the Marines?”と聞き返すと、教室内は爆笑の
渦に。そのほかの生徒も、学習した英語表現を使った
興味深いスピーチでクラスを盛り上げました。

定外教材を使っていると思っていました。

大松 検定外教材を中心に使っていた時期もありましたが、近年で検定教科書に戻しました。検定教科書を使うメリットは、改訂されるたびに時代に即した内容に改良されること、生徒に暗記させるのにふさわしい文章量であること、誤植がないこと、そして副教材が充実していることです。検定教科書は最新の英語教育理論が反映されているので、教科書の意図に沿って指導すれば、英語4技能が自然に習得できる作りになっています。

山口 ただし、教科書だけでは演習量が不足しているため、私たちの独自の教材で補う必要があります。生徒たちが意欲的に取り組めるプリント教材をいかに作るか、その辺は私たち教員の腕の見せどころですね。

清水 生徒たちに配るプリントは膨大な量になります。そこで、生徒たちには厚さ10センチの分厚い2穴用フォルダーを持たせ、プリントにはあらかじめ穴を開けて配布し、すぐにファイリングさせます。そうしないと、プリントをなくす生徒が必ず出てくるので。

—最後に、山口先生から、小学生の保護者の方へのメッセージをお願いします。

山口 中1の男子は飽きっぽいので、空白の時間が5秒でただで、緊張の糸が切れてしまうこともあります。授業はそれだけテンポ良く進めなければならず、授業プランを綿密に作成するなど、準備にも時間がかかります。手間は時間もかかりますが、彼らにとって生初の英語の授業を担当するのは大きな喜びです。これから学び続けることになる英語の土台を築いていく責任の重さと同時に、やりがいを感じます。私たちの手作りの授業で、英語に興味を持ってくれる生徒を一人でも増やしたいですね。

—本日はありがとうございました。



山口 大学入試の英文でも、中3の検定教科書レベルの構文が正確に書ければ及第点に達すると言われています。ですから、中学時代に基本文型をマスターすることは重要なことです。

清水 英文を頭に入れるには、「穴埋めリーディング」も有効です。まず、全文を電子白板に写し出しておき、単語を部分的に消していきながら、全文を読み続けられるかどうか、生徒にチャレンジしてもらいます。

海城中学高等学校

〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-6-1 電話：03-3209-5880
https://www.kaijo.ed.jp/

交通：JR山手線「新大久保」駅から徒歩5分・地下鉄副都心線「西早稲田」駅から徒歩8分



写真左から
清水 明先生
山口 孝一郎先生
大松 達知先生